

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600640		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームふるさと(青い鳥ユニット)		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	令和6年2月21日	評価結果市町村受理日	令和6年4月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600640-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・町内会の行事などに参加し、地域との関わりを深め関係性を深められるようにしている。 ・その人その人にあったケアの提供で、自立支援に努め安全に過ごして頂けるよう努め、必要に応じたサポートでその人らしく過ごす事ができるよう支援します。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>苫小牧市の幹線道路に面し散歩をするのに最適な遊歩道「木漏れ日の道」が玄関前にある。3階建ての2階部分に明るく開放感のある「青い鳥」「憩い」の2ユニットがある事業所である。地域との交流を活発に行い町内会と良好な関係を築き、町内収穫祭では例年野菜を貰ったり、リサイクル活動に資源を提供するなどの協力をしている。市開催の「笑顔の花咲く写真展」に出品するための作品を利用者と作成したり、傾聴やオカリナ演奏などのボランティアも来訪し利用者の楽しみになっている。外出では季節行事の花見に出かけ自然と触れ合うほか、日常では職員同行での散歩や買い物に出かけている。隔週に訪問する協力医療機関の診察や、歯科と皮膚科の訪問診療を受けており、看護師の職員が処置や受診同行をするなど医療体制が整っている。常時の医療行為や経口摂取で栄養が摂れなくなるなど重度化した場合は医師を含めて家族と話し合い介護老人保険施設への移行支援を行っている。介護職員のスキル向上のため法人の研修体制が整っており、職員ごとに研修へ参加するほか個別に学べるeラーニングを活用し学びを深めている。職員は利用者個々に寄り添い、出来る事出来ない事を見極め本人に必要な支援を行っている。利用者が自分らしく安心して自由に楽しみを持ちながら暮らせる事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は行えていましたが、コロナ禍の事もあり実践には至れませんでした。	5項目の理念をパンフレットに明示し、両ユニットや玄関に掲示して周知をしている。職員採用時に共有できるよう話し、職員は理念カードを携帯して勤務をしている。利用者や家族へ利用開始前に理念の説明をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭り等の参加を計画していましたが、コロナ禍であった他天候不良による中止の為行事への参加が出来ませんでした。	今年度は町内夏祭りの屋台で職員が焼き鳥など購入し利用者に提供している。今年度からオカリナ演奏や傾聴のボランティアを再開している。町内会より収穫物の頂き物があるなど地域との関係は良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の事もあり、あまり地域への貢献は出来ていませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に日々の取り組みについて発信し、そこで頂いた意見等を日常のケアに還元する事が出来ていました。	運営推進会議は市職員、地域包括支援センター、町内会長、事業所職員で開催し、事故報告、行事関連の報告のほか利用者状況や職員の入退職などを報告し意見を得ている。運営推進会議の議事録を関係者全員に発送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて行事への参加や日常の様子・事故記録の他、今後の予定等も報告し、協力関係を築く事が出来ていました。	市主催の「笑顔の花咲く写真展」に利用者の作品を出展している。市や地域包括センターの職員から運営推進会議で意見や情報をもらっている。管理者が書類提出で市へ出向いている。北海道認知症グループホーム協会の研修に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に高齢者虐待・身体拘束についての研修を行っており、不適切なケアにならないよう意識の共有が出来ていました。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、不適切ケア(身体拘束・虐待)防止委員会を定期開催している。また、それらにかかる研修として「虐待防止と身体拘束について」を学んでいる。玄関は防犯目的のため昼夜施錠しているが、利用者の外出希望には対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の他、職員同士で互いに注意をし合い、不適切なケアの防止に努める事が出来ていました。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はありましたが、それを活用に繋げる事は出来ていませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	前もって変更部分を確認しておく事で、質問に対して詳しく説明を行う事が出来ていました。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から面会時等に要望を聞き、それをケアに反映する事が出来ていました。	今年度は5月から以前のような家族面会が再開され、訪問時に直接話を聞く機会がある。家族の意見は職員に口頭で伝えたいタブレットに入力し共有している。利用者の意見は本人に危険が及ばない事を確認し要望を実現している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議にてそれぞれ意見を出し合い、運営に活かす事が出来ていました。	会議や日々の業務で意見を聞いている。個人面談の機会もあり、意見や希望を聞いている。職員からの意見を尊重し業務改善をしているほか、職員の希望する休日は取得できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談や聞き取りを行って下さっており、前向きに働ける環境だと感じています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員共通の研修の他、それぞれ個人に合わせた研修を提示して下さっており、スキルアップに繋げる事が出来ました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の事もあり、他施設への訪問等は行う事が出来ていませんでした。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	適宜声掛けにて不安や要望を確認し、信頼関係の構築に努める事が出来ていました、		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様の様子を定期的に報告し、不安の軽減や要望の反映を行う事が出来ていました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシートの情報や入居者、ご家族様からの要望を聞きケアに反映する事が出来ていました。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	挨拶や対話を率先して行う事で信頼関係を築く事が出来ていました。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に入居者様の様子を報告する事で気持ちの共有を行う事が出来ていました。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の記憶が色褪せないよう、日常の会話を通して記憶を引き出す事が出来ていました。	親族や友人に葉書を書く手伝いや手紙を代行投函したり、電話の取次ぎなどの支援をしている。利用者の希望で職員同行で手芸品や日用品の買い物や散歩に出ている。新年に一時帰宅したり親族の法事に出席している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で関わりを持ち、環境に馴染めるように声掛けを行いながら対応出来ていました。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も定期的に情報交換を行い、関係を続ける事が出来ていました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から入居者様一人ひとりの要望や気持ちを聞く事が出来ていました。	日々利用者と会話し、思いや意向、訴えを聞いている。言葉にすることが難しい場合は家族から情報収集をしたり表情を観察している。アセスメントシートはケアプラン作成時に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴からその人に合ったケアを提供する事が出来ていました。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活を見守りながら、その人の出来る事や残存能力を把握する事が出来ていました。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議を通して意見を出し合い、それを反映した計画が作成出来ていました。	日々の申し送りや毎月のカンファレンスを実施する際に関わりについても検討し評価表に反映させている。家族の希望や意向を確認し、利用者が一番安心できる暮らしの計画書を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	適宜記録に残し、職員間での共有が出来ていました、		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人に必要なケアを考え、提供する事が弟子来ていました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア等で外部との交流を行い、心豊かに過ごして頂く事が出来ていました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の他、緊急時の連携の為に、定期的な情報の共有が出来ていました。	協力医療機関から隔週の訪問診療と必要時の歯科と皮膚科の往診体制がある。看護師の職員が受診と処置の対応をしている。受診結果を医療情報ファイルに保管し家族へ受診結果を報告する事で情報を共有している。	

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	都度情報の共有を行い、異常の早期発見やケアの最適化に繋げる事が出来ていました。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	素早く情報交換が行えるよう、常に記録に残し分かりやすくまとめる事が出来ていました。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でご家族様と連絡を取り合い、今後の方針や情報の共有を行う事が出来ていました。	「利用者様が重度化した場合の対応に係る指針」を契約時に説明し、医療処置が常時必要となったり食事が経口摂取できない場合は医師の判断に基づき家族と相談の上、介護老人保険施設への移行をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応上司からの指示を待つのが現状であり、訓練等は出来ていませんでした。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、避難経路の把握や対応方法を学ぶ事が出来ていました。	本年度は5月と12月に昼夜の火災想定で避難訓練を行っている。来年度より必要となる自然災害発生における業務継続ガイドラインの策定を済ませており災害時に必要となる備蓄品も確保してある。	次年度に火山噴火を想定した訓練を計画する予定であるので、その実施に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	決して否定せず、あいさつや感謝の言葉を意識しながら対応する事が出来ていました。	接遇に係る研修の受講や不適切ケア防止委員会で事例を取り上げ留意点を周知し、適正な対応が全体のものとなるように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度声掛けを行い、難しい場合は2択で提示する事で自己決定を促す事が出来ていました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で促すのではなく、ご本人の希望や意思を確認してから対応する事が出来ていました。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色を確認又はどちらがいいかと選んで頂き、その人らしい身だしなみで過ごして頂く事が出来ていました。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食前の準備、食後の下膳等、その人の能力に合わせた動作を一緒に行う事が出来ていました。	法人の献立で食事を提供している。麺が苦手な利用者へは米飯に置き換え、好みに合わせ別途一品加える時がある。誕生日は赤飯やちらし寿司にケーキを添え、取り寄せではお節料理や生寿司、ピザを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やロミ剤の使用等、その人に合った食事形態で提供する事できちんと摂取して頂く事が出来ていました。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	都度声掛けにて口腔ケアを促し、必要に応じて介助を行う事で口腔内の清潔保持が出来ていました。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適宜声掛けにて排泄を促す等の対応を行いました。が、排泄の失敗やおムツ使用の削減は達成出来ていませんでした。	排泄状況の記録は、タブレット以外に別途、排便チェック表を用いて状況を記載している。自立排泄の利用者も多い。誘導するもトイレに行く事を拒む利用者へは無理強いせずに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	座薬や下剤の使用ばかりで。運動等による便秘の予防は取り組む事が出来ていませんでした。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回程度と頻度は職員で決めてしまっていますが、なるべくご本人が希望する時間帯での入浴を行えるよう支援する事が出来ていました。	曜日を問わず入浴ができる環境を整え、利用者の希望や気分を逃さずにタイミングを見計らって誘っている。元来、入浴を好まず入浴支援が不可となっている利用者の場合は、適宜、ドライシャンプーや清拭など代替えでの対応で清潔保持を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望によって居室に誘導する等の対応を行う事が出来ていました。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容について全ては把握出来ていませんでしたが、必要に応じて資料を確認する等の対応を行いました。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の能力や趣味に応じて、家事の手伝いやレクリエーションの提案を行う事が出来ていました。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であった事もあり、外出支援は殆ど行う事が出来ませんでした。	天候のよい時期は希望に応じ散歩に出かけ、近隣スーパーマーケットやドラッグストアへ買い物に出かけている。ドライブで桜見学や金太郎池では鯉を眺めるなどの外出も行った。事業所前の花壇の花植えは、利用者も一緒に行い、来年度は木漏れ日の道にある、ふるさと農園で菜園を再開する予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持・使用の支援は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様自らが電話を使用する事は出来ませんが、希望があった際には職員が電話をかけ、その後入居者様に代わる等の支援は来ています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう随所に行事や季節の飾りを配置する等の工夫を行う事が出来ていました。	広い共用空間にゆとりを持ったダイニングコーナーとリビングコーナーを配置し、他に椅子とテーブルを置いたセミパブリックスペースもある。利用者と職員と一緒に制作した作品や季節の飾り物を掲示している。ユニット間は自由に行き来ができる。エアコンや暖房機器、加湿器や空気清浄機で温湿度や空調を管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテレビ前には数人で寛げるようにソファを設置し、食席も複数人で集まれるよう周囲を広く空けるなどの工夫が出来ていました。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鋸歯の家具は入居者様やご家族様の希望に合わせて設置し、模様替えの際も入居者様及びご家族様に確認した上で行っていました。	備え付けのカーテンや照明などの備品はあるが、好みの色のカーテンに掛け替えたり、ちゃぶ台と座布団で床に座って過ごす利用者もいる。使い慣れた家具類やCDラジカセ、昔の仕事関係の写真や雑誌、仏壇など大切な品々を持ち込み、居心地よく過ごせる居室環境をサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路は歩きやすいように広めにとりなるべく物を置かない事で、安全に配慮する事が出来ていました。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600640		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームふるさと(憩いユニット)		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	令和6年2月15日	評価結果市町村受理日	令和6年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・それぞれの能力に応じて掃除や料理の下さしえ等を行ったり、ゲームや制作等のレクレーションを楽しみながら日常生活を送り、できる事を長く継続していけるようサポートしています。
 ・気候の良い季節には町内会の方が育てた季節のお花を鑑賞しながら施設前の遊歩道「こもれびの道」をお散歩します。
 ・家族や地域との結びつきを大切にしながら喜怒哀楽を共にし信頼関係を築いていきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0193600640-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員共に理念を意識しながら実践に繋がられるようユニット内2か所に理念を掲げ共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類に移行されてからは運営推進会議の開催や地域行事の参加、ボランティアの受け入れ再開等で交流が戻りつつある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ブログの更新を毎月行い日常の様子を発信している。 職員が認知症サポーター養成講座へ講師として参加し理解を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では取り組み状況や入居者状況の報告等を行い、出席者との意見交換を通じてサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いており事業所の現状報告は行っており、その他問題や疑問等があれば連絡を取り合い協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケア防止委員会の開催と定期的な研修の実施を通して全職員が理解を深めている。又、身体拘束廃止を進める為の18のチェックポイントを事あるごとに再読している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が定期的な虐待防止研修の履修やeラーニングでの研修で学び、職員間での声掛けや気づいた事を共有し虐待防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象入居者についての話し合いや必要性について検討する機会が持てた。管理者と計画作成担当者は研修に参加し理解を深める事ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定の際には十分な説明を行い理解・納得を得ている。その都度不安や疑問点を尋ね説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の連絡の際や、ケアプラン説明時等に意見や要望を伺う機会もあり共有することが出来ている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な発言から意見や提案を出し合ったり、必要に応じて個人面談等を行い反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や資格取得により昇給の仕組みがあり、職員が向上心を持って働く事ができるよう職場環境や条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に合わせた研修内容を提示しスキルアップできるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修等へ参加し同業者との交流を深め情報や意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートや聞き取りを参考にし、関わりを多く持ちながら困り事がないか確認を行い安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際はご家族の要望を伺い、困り事や不安を解消して頂けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今必要な事を見極められるよう注意深く観察を行いより良いサービスの提供ができるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちに寄り添いながら一緒に物事を行ったり、遠慮なく話せる家族のような関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を面会時やお手紙で伝え共有する事で信頼関係の構築に努め、共に本人を支える者として協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限の緩和もあり、家族と居室で気兼ねなく過ごせるよう居心地の良い対応に努めている。ご家族の協力を得て一時帰宅やなじみの場所への買い物等を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握しておりトラブルが起きないように職員が介入したり、席の工夫を行いながら入居者同士の交流に努めている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても相談に応じる事を伝えており、必要時の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で希望や意向を引き出せるような言葉掛けに努めている。意思表示が難しい場合でも言動から思いを汲み取り、職員間で検討し入居者本位の支援に繋がられるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りやフェースシート等で情報の確認を行い、サービス利用の経過後も定期的にシートを更新を行い共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の活動内容、様子や過ごし方については申し送りをし変化や発見を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の意向を取り入れつつモニタリングや会議での意見交換を行い検討したうえで現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の実践状況や日々の様子は小まめに記録し共有している。変化や気づきは次回の介護計画に活かせるよう個別のファイルに記入、更新を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況に応じて、買い物代行や衣類等の補充など必要な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加やボランティアの受け入れ等も再開されコロナ前と同様に入居者が豊かな暮らしを楽しむ体制が整って来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の状態に応じて定期受診・往診や臨時受診を実施しており、かかりつけ医から生活上の注意事項の指示を受けるなどしながら健康管理、異常の早期発見ができるよう連携に努めている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気づきを報告し気になる事は随時相談している。又、必要時には迅速で適切な対応ができるよう相談体制が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には適切な医療、看護を受けられるよう必要な情報提供を速やかに行っている。病院関係者からも状況や経過を聞きながら退院後に適切なケアができるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所のできる限りの対応に努めると共に重度化への限界についても十分に説明し納得して頂けるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成共有を行っているが定期的な研修訓練を行うまでには至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施し地域との協力体制も築けているが、新しい職員や外国人研修生もいる事から更なる対策が必要だと感じている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の権利、人権を常に意識しながら誇りやプライバシーを損ねない言葉使いと対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる環境作りや言葉掛けを行い、表現が困難な方には言動や表情から思いを読み取り代弁できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを把握、理解したうえで楽しみながらその人らしく過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりや好みを尊重しながら清潔を心掛けその人らしいおしゃれができるよう援助している。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備や盛り付け、片づけ等個々の能力を活かしながら職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士管理のもとバランスの良い食事を提供しており食事や水分摂取量の把握を行い健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の助言書を元に一人ひとりの状態に応じた支援を行えるよう援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣を把握し、排泄の失敗が軽減できるよう努めているが、誘導が困難な場合も多くおむつ使用減に至っていない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の影響を理解し看護師・かかりつけ医との連携を密に個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴支援はほぼ毎日行っており、声掛けを工夫しながら入浴をするしないや時間等の希望に沿える支援を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその人の状況に応じ、居室やソファ等で気持ちよく休息が取れる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は職員が自由に確認できるようになっており、薬の変更等は必ず申し送り等で共有し、症状の変化を観察し看護師や医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じた役割を持って頂いたり、レクリエーションの提供を行い気分転換や楽しみを持ちメリハリのある毎日が送れるよう支援しています。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物支援や屋外散歩、花壇の手入れ等戸外での活動を行えるよう支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は多くはないが、買い物に同行し使用を見守ったり自己管理できるよう援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿う形で電話を掛けたり取り次いで話して頂く等の支援を行っています。郵送で届いた手紙やハガキも本人に渡し交流の継続を援助しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除を毎日実施し必要に応じ室温の調整、換気を行い快適に過ごして頂けるよう努めている。季節の飾り付けを行い話題にしながら寛げる空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに何か所か配置したソファーにより解放的だがひとりの空間が持てたり、テレビやDVD鑑賞をしたり思い思いに過ごせる場所が確保できている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談し、本人が使い慣れたものや思い入れのあるものを置き、安心して過ごせる居室作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、補助具や車椅子使用でも安全に移動できるように家具を配置したり理解しやすいように貼り紙を利用などの環境整備を行っています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームふるさと

作成日：令和 6年 3月 29日

市町村受理日：令和 6年 4月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	通年、火災による避難訓練のみの実施になっており、地震・噴火による災害のくんr年は実施できずにいた事。苦小牧市の防災ハンドブックによると、施設の位置からする場所は、火山灰の警戒区域に示されている事から定期的に訓練を実施していかなければならな いと考えている。	職員全員に施設の災害リスクと対策法の認識を一致させる為の訓練や研修を実施し、災害時における緊急対応や対処法など把握できるようにする。	・令和6年4月、「非常災害対策計画」の見直しを行うにあたり、職員の非常災害対策計画への理解を深めていけるよう周知し、定期的に適切な訓練を行っていく。 ・令和6年3月の運営推進会議を通して、町内会長様からも助言や協力に向けてのお言葉を頂いたので、地域住民の参加が得られるよう連携を図って行く。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。